第5章 各更生保護関係団体による挑戦事例

実践マニュアルの作成にあたって、全国の更生保護関係団体にクラウドファンディングに挑戦していただきました。クラウドファンディング事業者の運営するサイトにプロジェクトを載せることができた８つの団体は、すべて目標金額を達成しています。

福祉医療機構の担当者が各団体の伴走支援をする中でみえてきた、更生保護関係団体によるクラウドファンディングの特徴や、成否のポイントなどをまとめました。

1．更生保護法人　愛媛県更生保護会　（担当：三好仁美）

2．京都府更生保護女性連盟　（担当：秦佑佳）

3．和歌山県BBS連盟　（担当：近藤拓弥）

4．更生保護法人　沖縄県更生保護協会　（担当：三好仁美）

5．SGU江別BBS会　（担当：三好仁美）

6．阿倍野地区BBS会　（担当：中野佑一）

7．更生保護法人　紫翠苑　（担当：近藤拓弥）

8．八王子BBS会　（担当：三好仁美）

“『社会的孤立』がない世の中に！
高齢者が地域ともっとつながれる食堂を開きます。”

1．更生保護法人　愛媛県更生保護会

（更生保護施設／愛媛県／松田辰夫 施設長）

概要

更生保護施設として、すぐに社会復帰が難しい出所者に対して、衣食住の提供や就労支援をおこなっているほか、高齢者や障がい者などで就労支援につなげることが難しいケースについて、農園活動を通じた「生きがいづくり」の提供をおこなっている。

これまで入所者の「生きがいづくり」のために農園活動をおこなってきたが、施設を出た後も入所者が地域との関わりをなくさず、「地域の役に立った」と自己肯定感を高められる取り組みをおこないたいと考え、また、社会的孤立による高齢になってからの初犯や、高齢犯罪者の高い再犯者率を減らすことにも資するよう、地域の住民が同じ食卓を囲む「ホゴちゃん・サラちゃん食堂」の開催を決定し、開催費用をクラウドファンディングにて募集することとした。

クラウドファンディングの実施結果

●公開期間	2019年10月17日 ～2019年11月28日（43日間）
●目標金額	400,000円
●事業者	GoodMorning
●方式	All In／寄付型

●達成金額	1,219,500円
●達成率	304%
●支援者	124人
●目標達成までの期間	11日目
●準備期間	約４か月

●支援金額メニューと特徴的なリターン

〔メニュー〕3,000円/5,000円/10,000円/30,000円/50,000円

50,000円①：お礼のメール、施設発行広報誌「雄郡寮たより」にご支援いただいた方を記名・贈呈、みかん１箱（10kg）

50,000円②：お礼のメール、施設発行広報誌「雄郡寮たより」にご支援いただいた方を記名・贈呈、施設１日見学＆熱血施設長と「更生保護を語る会」

達成までの道のり

- 施設長の決断により周囲を説得してプロジェクトを開始。クラウドファンディングについての認識が薄かったこともあり、当初は職員から実施を不安視する声が上がることもあったが、施設長が奮闘した。伴走支援をする福祉医療機構と頻度高く連絡を取り合い、企画や今後の動きを共有しながら準備を進めた。
- プロジェクト開始１月前にはチラシを作成し、公開前から積極的に周囲の人たちに支援を依頼。公開後は早々に支援が集まり、開始１週間で目標の８割を達成。サイト内の「スタッフ推奨プロジェクト」に掲載されたことも手伝い、他のプロジェクトに埋もれずにさらなる支援につながった。
- 中盤では多数の新聞記事・テレビ取材での露出があり、著名人に応援メッセージを依頼するなどして中だるみ対策をおこなっていた。
- ラストスパートは、各メディアの報道や事前に依頼をしていた人たちからの駆け込み支援もあり、304％の達成率で終了した。

課題

- パソコンでの作業に課題があり、プロジェクトページ作成などでサポートが必要だった。また、インターネットへの苦手意識からSNSの運用を開始しなかったため、クラウドファンディング実施後の施設の活動を発信する場が依然として増えなかった（ホームページでの更新はしている）。

成功のカギ

○企画段階から支援につなげる工夫

- リターンの設定、応援メッセージ、イベント企画などにおいて、できる限り他団体を巻き込んでいた。また、他団体へ協力の依頼をする際には、プロジェクトページでその団体の紹介をするなど、「Win-Win」の関係を提案。関係性をつくることで結果的に支援も得た。

○さまざまな層に個別に対応した広報

- チラシについては、第１弾チラシでプロジェクトページにはない１人500円での支援を更生保護関係団体に向けて広報し、団体が集約し一括支援として入金。第２弾チラシである一般用にはプロジェクトページと同じ支援金額メニューを記載した。
- 施設長の知り合いで、更生保護と親和性のあるインフルエンサー（大学教授と社会福祉法人役員）にSNSでの広報を依頼し、広く情報が拡散された。
- メディアも活用し、過去に関わりのあった記者へ積極的に依頼をしたことで多くの新聞に掲載された。

○施設長のリーダーシップ

- 絶対に成功させるという施設長の覚悟と責任感。愚直な行動力。
- フットワーク軽く直接依頼に行く、すぐに電話をかけるを徹底したこと。
- 施設長の昔の知り合いなどのネットワークもすべて活用し、以前取材に来た新聞記者などへも積極的に働きかけた。
- 自分自身や自団体でできない部分については他の団体や個人へ素直にお願いをしてやってもらう。（外部リソースの活用）

“地域と更生保護の懸け橋となるフリーペーパー『京更女じかん』の発行を続けたい！”

2．京都府更生保護女性連盟

（更生保護女性会／京都府／齋藤常子 会長）

概要

更生保護女性会として、各地域の実情に即した課題を話し合う研修会のほか、更生保護施設への訪問活動や子育て支援活動などに取り組んでいる。また、京都府更生保護女性連盟特有の取り組みとして、更生保護への理解を促すフリーペーパー『京更女じかん』を発行している。

京都府更生保護女性連盟は、これまで地域に根差した更生保護女性会ならではの目線を生かした内容で、更生保護の普及啓発を目的としたフリーペーパー『京更女じかん』を発行してきた。１回につき１万部作成しているため、その広報力は大きく、地域住民からも好評だった。これまでは助成金や寄付金で発行していたが、資金難となり発行資金をクラウドファンディングで集めることとした。

クラウドファンディングの実施結果

●公開期間	2019年10月21日 ～2019年11月30日（41日間）
●目標金額	1,000,000円
●事業者	GoodMorning
●方式	All In／購入型

●達成金額	1,563,500円
●達成率	156%
●支援者	86人
●目標達成までの期間	37日目
●準備期間	約５か月

●支援金額メニューと特徴的なリターン

〔メニュー〕3,000円/5,000円/10,000円/30,000円/50,000円/100,000円

100,000円：心を込めたお礼のお手紙、作成した『京更女じかん』10冊、作成した『京更女じかん』にあなたのお名前を掲載、京の社明くん一筆箋、『京更女じかん』バックナンバー全８冊、京更女の活動体験、手作り更生ペンギンの「ホゴちゃん」「サラちゃん」マスコットのペアセット、あなたの団体（または個人）の取り組みを取材し、紙面に記事を掲載します！

達成までの道のり

- 会長の決断により開始。『京更女じかん』は、思い入れのある制作物であることなどから、他の役員も比較的前向きな姿勢からスタートした。
- 会員数が5,000人以上と、非常に多いため、毎回10人程度の中心メンバーで打合せを実施。
- チラシやプロジェクトページなどのデザインにもこだわり、SNSでの広報活動や、イベントにも積極的に参加してチラシを手渡しするなどの広報活動を実施したが、開始１週間の達成率は20％を下回り、伸び悩む。
- 支援が伸びない中で福祉医療機構より支援者リストの再活用を提案。まずは実行者が積極的に活動することの重要性を再確認。会員に改めて拡散や支援のお願いを依頼することで、これまで入っていなかった友人・知人からの支援が入る。
- 「サイト上での支援方法が分からない」との声があり、カード払い/コンビニ払い/銀行振込払いの操作マニュアルを作成。配布直後からコンビニ払いが増加した。
- ラストスパートは、各地区会会員からの支援のほか他団体からの応援もあり、37日目にして達成。

課題

- 中心メンバーで企画をしたが会員数が非常に多く情報共有が難しいために、中心メンバーと各地区会の会員との間でプロジェクトに対する関心の差が大きかった。
- 開始直後に呼び水として期待した身内や知り合いからの支援が思うように入らず、プロジェクトが盛り上がらないまま時間が経過。会員間に危機感や当事者感が薄れやすかったことが課題だった。

成功のカギ

○支援者に合わせた丁寧な対応

- 会員の平均年齢が高いことから支援者の年齢も高くなると想定。インターネットからのみでなく郵便局からも振り込みできるようにチラシに払込取扱票を載せ、払込取扱票にはあらかじめ振込先口座番号を印刷するなどの工夫があった。ほかにも、コンビニ払いの手順などを記載した資料も配布した結果、直後から支援が増加した。

○団体の規模を活用

- 支援が伸び悩む中で、強みである会員数を活用し、まずは各地区会を通した身内からの支援を再度依頼。会員１人あたりは少額だが多くの口数が集まり、プロジェクトが動き出すきっかけとなった。
- 会員や友人からの支援の割合が高いプロジェクトとなってしまったが、少額の支援でも結果としてフリーペーパーの発行を継続できたことは、今後の団体組織としての内部からの協力へのヒントとなった。（毎年の超少額支援の依頼などの可能性）

“被災地・石巻で有田みかんを使った運動会を続けたい！”

3．和歌山県BBS連盟

（BBS会／和歌山県／高垣晴夫 会長）

概要

BBS会として、少年・少女の非行防止等を目的とした昼回り運動、夜回り運動などを年間延べ450回程度おこなっている団体。東日本大震災直後から被災地・石巻への支援もおこなっており、震災翌年からは毎年、被災地に和歌山県の名産品である、有田みかんを届けて、みかんを使った運動会を開催している。

運動会は被災地の子どもから高齢者まで好評を博しており、2019年には今まで支援をおこなってきた場所以外からも依頼があった。しかし、震災からの時間の経過を理由に、これまで復興支援のために活用していた補助金が減ってしまい、みかんを届けることが難しくなったため、今回クラウドファンディングにて資金調達をすることとした。

クラウドファンディングの実施結果

●公開期間	2019年11月１日 ～2019年12月20日（50日間）
●目標金額	180,000円
●事業者	GoodMorning
●方式	All In／購入型

●達成金額	193,000円
●達成率	107%
●支援者	36人
●目標達成までの期間	40日目
●準備期間	約３か月

●支援金額メニューと特徴的なリターン

〔メニュー〕3,000円/5,000円/10,000円/30,000円

5,000円：お礼のメッセージ、みかん運動会当日の動画(閲覧用URL送付)

30,000円：お礼のメッセージ、みかん運動会当日の動画、みかん運動会当日にスタッフとして参加(交通費、宿泊費自己負担)（３名限定）

達成までの道のり

- 日本BBS連盟の総会でのクラウドファンディングの説明を聞いた会長が興味を示し、実施を決定した。
- 「普段から寄付のお願いをしているため、支援をしてくれる人はいるが、今回はインターネットでの寄付を検証したい」との意向があり、友人・知人への支援のお願いはしない方向で企画を開始。
- 当初よりページへの訪問者は少なく、応援メッセージなどの掲載はしたものの、スタートダッシュもないことから支援は伸び悩む。
- 中盤では、資金ではなく開催する運動会で使用するみかんを送りたいという話などもあったが、資金面での支援は低調。なかなか広報における具体的な活動がなく、日にちだけが経過することとなった。
- 終盤で各メディアに取り上げられ始めてから、徐々に支援が集まり、107％の達成率で終了。

課題

- 活動できるメンバーが少なく、作成作業や広報活動に制約があった。また、各メンバーは日中働いているため、打ち合わせできる時間帯も限られ、頻繁なやりとりがあまりできていなかった。
- インターネットでの発信については団体内で慎重論があり、ＨＰやSNSの開設には至らなかった。そのため、インターネットで検索してもこの団体の内容が分からなかった。メディア報道をおこなってからは、「クラウドファンディングサイトにアクセスできない」と観察所への問い合わせがあったり、「サイトからの支援を試みたが、できない」ということで直接保護観察所に現金書留を持参したり、BBS会員に直接支援金を持参する支援者が数人規模で存在した。

成功のカギ

○ターゲットを定めた広報戦略

- 応援メッセージは、和歌山県や石巻市に関連のある著名人に依頼。支援者の内訳をみると、和歌山県の人が多かったことからも、地域性を出す広報に効果があったと思われる。
- 今回は「更生保護」だけでなく「被災地の復興」をテーマとしていたため、各メディアも「被災地の復興」という共感が得やすい視点からの報道となった。
- プロジェクトページでは、復興支援に興味はあっても、更生保護について知らない人が閲覧することが予想されたため、更生保護やBBS会についての説明を丁寧におこなった。

“お酒の問題を抱えた人を回復につなぎ、家族の笑顔を取り戻したい！”

4．更生保護法人　沖縄県更生保護協会　（更生保護協会／沖縄県／武富秀世 事務局長）

概要

更生保護協会として、沖縄県内の更生保護施設や更生保護団体への助成のほか、犯罪予防活動や更生保護の普及啓発をおこなっている。他にも、更生保護関係団体の連絡調整業務や、一時保護事業を実施している。

沖縄ではお酒の問題を抱えた人が多く、飲酒を背景とした犯罪や非行が多く発生しており、問題飲酒からの回復支援が課題となっていた。そこで、今回、アルコール依存症者の周りで困っている家族への支援をおこないたいと考え、お酒の問題で悩んでいる方の家族などを主な対象とした講演・ワークショップを開催し、「クラフト」という手法を沖縄で広めるためのプロジェクトを立ち上げた。

クラウドファンディングの実施結果

●公開期間	2019年11月21日 ～2019年12月26日（36日間）
●目標金額	300,000円
●事業者	GoodMorning
●方式	All In／寄付型

●達成金額	479,000円
●達成率	159%
●支援者	64人
●目標達成までの期間	20日目
●準備期間	約３か月

●支援金額メニューと特徴的なリターン

〔メニュー〕3,000円/5,000円/10,000円/30,000円

10,000円：著者のサイン入り本！「CRAFT(クラフト)－アルコール・薬物・ギャンブルで悩む家族のための７つの対処法」１冊、透明シール（更生ペンギンのホゴちゃんとサラちゃんの１年の過ごし方）１枚、透明シール（更生ペンギンのホゴちゃんとサラちゃん）１枚、当日講演資料のPDF、お礼のメール（10名限定）

達成までの道のり

- 沖縄県更生保護協会の人員が少ないということ、また、保護観察支援者への改善指導にも資することから、那覇保護観察所のサポートを受けて実施することを決定。
- 準備段階ではプロジェクトページ、協会のFacebookページなど、観察所のサポートを受けながらスムーズに作成できた。
- 事前に実行者の友人・知人、関係団体へ支援をお願いし、開始後なるべく早いタイミングで支援をしてもらうように働きかける意識を中心メンバー内で再確認。
- 開始直後より支援が集まり、GoodMorningトップページに掲載がされた。
- 中盤は積極的にSNSでの広報をおこなうも伸び悩む。そこでインフルエンサーに広報を依頼しプレビュー数が急増。159％の達成率で終了。

課題

- 協会組織が小さいことから単独では実行不可能であった。
- 協会自体が主導して行事を企画する形での地域や他団体との関わりがこれまでは少なかったため、広報などは保護観察所に協力を求めることが多くなった。
- 協会側でインターネット（SNS）での情報発信を継続的にしていく体制をつくることが今後に向けた課題。

成功のカギ

○クラウドファンディング公開直後の支援に向けた対応

- 事前に実行者の友人・知人、関係団体へ支援をお願いし、呼び水として開始後なるべく早いタイミングで支援をしてもらうように働きかける意識を共有するとともに、目標数を設定したこと。
- 各担当者は「誰が」「どの支援者に」「どのタイミングで」「どんな手段で（電話、訪問など）」お願いをするかを決めて広報の割り振りを実施した。

○保護観察所との密な連携

- 保護観察所の職員が出席するイベントでも広報することができ、広報活動の機会を増やすことができた。

○ＩＴスキルのある協力者によってインターネットでの広報を積極的に実施

- ＩＴスキルのある協力者がいたため、クラウドファンディングのページ自体が工夫を凝らしたわかりやすいものとなった。
- 協会のFacebookを開設することで興味のある人へ直接的な発信ができた。

○ターゲットにつながるインフルエンサーを活用し、魅力的なリターンを用意

- 依存症の権威である医師に広報を依頼したことで、プロジェクトページへの訪問数が急増した。また、依存症関係に興味がある人のために書籍のリターンを用意。著者サイン入りを用意して希少性を出したこともあり支援につながった。

“少年たちのやり直しを全力でささえたい。そんな私たちのサポーターになってください！”

5．SGU江別BBS会

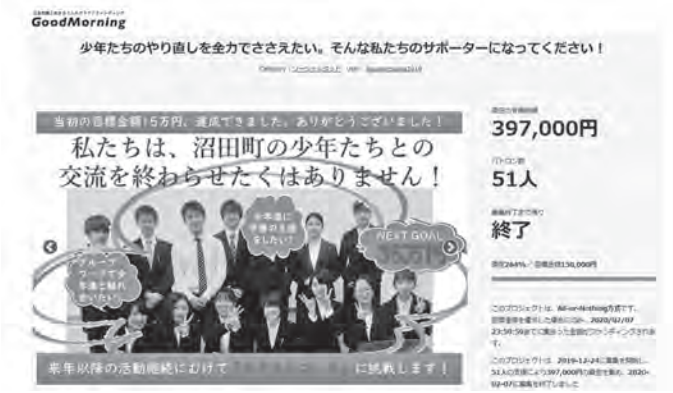
（BBS会／北海道／髙野紗也香 前会長・高橋美佳 会長）

概要

BBS会として少年鑑別所・少年院などの施設訪問をおこなったり、不定期に保護観察中の少年とグループワークをおこなっている。その他ひとり親の子どもたちを対象にした学習支援を実施。法務省保護局が主催した沼田町、沼田町就業支援センター、BBS会の３者連携プロジェクトに現地サポーターとして２年間参加。

少年院を仮退院した少年たちが農業実習を通して改善更生を図るための施設「沼田町就業支援センター」で２年間、少年たちとの交流活動（３者連携プロジェクト）に参加してきたが、来年度は資金がなく終了が予定されている。今後も「ともだち活動」を通して少年たちの自立を支えたいと考え、クラウドファンディングで活動資金を集めることに挑戦することとした。

クラウドファンディングの実施結果



●公開期間	2019年12月24日 ～2020年２月７日（46日間）
●目標金額	150,000円
●事業者	GoodMorning
●方式	All or Nothing／購入型

●達成金額	397,000円
●達成率	264%
●支援者	51人
●目標達成までの期間	10日目
●準備期間	約３か月

●支援金額メニューと特徴的なリターン

〔メニュー〕1,000円/3,000円/5,000円/10,000円/30,000円/50,000円

1,000円：【学生限定！一口応援コース】お礼のメールをお送りします！

30,000円：お礼のメール、報告書（PDF）、会員メッセージ付き集合写真、沼田町特産「雪中米（ゆめぴりか）450ｇ」２個、センターの少年たちに届けたい本を１冊選んで送る権利（書籍の購入費、SGU江別BBS会への送料自己負担）

50,000円：【沢山のリターンは不要！とにかくセンターの少年たちやSGU江別BBS会、そして沼田町を応援したい！という方】報告書（PDF）

達成までの道のり

- 会員内に３者連携プロジェクトに対しての思い入れがあり、今後も継続させたい意志があることから、クラウドファンディングでの資金調達を提案。会長以下ほぼ全員が賛成してスタート。
- 大学の教室を利用するなどして複数回企画を練るためのミーティングを実施。参加した学生全員がこの企画に前向きな姿勢。
- 実施前に現地に赴き、就業支援センターや沼田町役場のほか、就業支援センターの取り組みに協力している地域の団体に説明をおこなうことで理解と協力体制が得られた。現地では少年に再会できるなど、参加した学生のモチベーションも上がり、キーとなるアクションだった。
- 開始直後から、沼田町の地域団体、他のBBS会などから支援が入り、また、チラシ等から活動を知った沼田町民が大口の支援をしてくれるなど、沼田町全体での応援ムードができ上がっていた。開始10日目にして目標金額に到達した。
- 開始早々に新聞記事に取り上げられるなど、幸運な部分もあったが、その後は行事等で積極的に広報し、その活動を通して新聞社の取材を取ってくるなどの動きがあった。
- ネクストゴールを設定し、学生たちも自発的に行動することでネクストゴールも達成し、264％の達成率で終了。

課題

- 大学生の団体であるため、本来の学業活動との兼ね合いが難しく、また、活動に積極的に参加する学生と動向を見守る学生に分かれた。
- 『社会から資金をいただいた』ということについて、感謝や誠意を示すことへの意識や方法に課題もみられた。社会人がいると引き締まる部分だと思われる。

成功のカギ

○一人ひとりの学生に当事者意識を持たせた

- All or Nothing方式を採択したことで「目標金額を達成しなければ１円も支援が入らず、交流事業の実現が難しい」という認識を持たせ、当事者意識を持って事前広報をするよう呼び掛けた。
- 直接現場に行くことで学生のモチベーションを高め、役割を与えることで積極的に活動することにつながった。他団体の主催するイベントに手の空いている学生ができる限り参加し、広報をおこなった。

○沼田町の発展というメッセージを盛り込んだ

- 学生側の要望だけでなく、過疎化が進む沼田町に、学生が継続的に来ることのメリットも感じてもらえる企画にしたことで、町民の応援を得られた。
- 沼田町役場や就業支援センターに直接お願いに伺うことで、電話やメールだけではない町民との絆がつくれ、支援につながった。特にその後のお礼や報告の連絡についても電話とメールを使い分けながら、できるだけ直接的な連絡をするように留意した。

○SNSの活用

- LINEのグループトークを活用し、時間や場所にとらわれずに議論ができた。
- Twitterや各会員のFacebookなども活用して情報の拡散に努めた。

“児童養護施設の子ども達に フラメンコ体験をもう一度！”

6．阿倍野地区BBS会

（BBS会／大阪府／大野加代子 会長）

概要

BBS会として、更生保護施設へのボランティアを中心に、地区のイベントに参加するほか、保護者のいない児童、虐待を受けている児童、家庭環境やさまざまな事情により家庭での養育が難しい児童を入所させて養護をおこなう「児童養護施設」への訪問活動をおこなっている。

児童養護施設に入所している子どもたちが感情を表せる場を提供することが、子どもたちへの精神的な支援になるのではないかと考え、施設訪問時にレクレーションのほか、フラメンコ体験を実施してきた。今年度３月に予定している子どもたちが楽しめるゲームやフラメンコ体験のワークショップに必要な経費をクラウドファンディングにて募集することとした。

クラウドファンディングの実施結果

●公開期間	2019年12月25日 ～2020年１月30日（37日間）
●目標金額	150,000円
●事業者	READYFOR
●方式	All or Nothing／購入型

●達成金額	238,000円
●達成率	159%
●支援者	47人
●目標達成までの期間	22日目
●準備期間	約５か月

●支援金額メニューと特徴的なリターン

〔メニュー〕1,000円/3,000円/10,000円/20,000円/30,000円

10,000円：お礼のメール、手作りのシュシュ、活動参加権

20,000円：お礼のメール、手作りのシュシュ、フラメンコ体験１名（30名限定）

30,000円：お礼のメール、手作りのシュシュ、フラメンコ体験ペア（10名限定）

達成までの道のり

- 会員数名の小さな団体でクラウドファンディングをきっかけとして、一緒に活動してくれる会員も増えて欲しいという会長の決断により挑戦。これを機会に多くの人に活動を知ってもらいたいと考える。
- 当初の企画は児童養護施設でのレクレーションのための資金だったが、なかなか内容も詰まらずに２か月近くが過ぎ、今後の地区会の存続も含めて再検討となる。
- その後、フラメンコを教えることができるBBS会員の協力を得て、レクレーションとフラメンコ体験に企画を変更し、会長１人だけでなく熱心なBBS会員の協力による２人体制でプロジェクトが動き出す。
- 「子ども×フラメンコ」のキーワードを中心にプロジェクトページを作成し、チラシも積極的に配布した。
- プロジェクト公開後のスタートダッシュは達成目安を超えていたものの、実行者側の意識もまだ低く、その後も伸び悩む。
- 中盤に、フラメンコ関係者へのアプローチから、熱心な協力者が現れ、協力者自身のフラメンコ教室を通してチラシ配布や代理入金をおこなうなど、大きく支援金額が伸びた。その後もフラメンコ関係者からの入金が相次ぎ目標額を達成。
- 終盤には会長の広報活動による更生保護関係団体からの支援も増える。訪問先の児童養護施設の理事長の理解もいただき、単独の訪問だけでなく継続的な訪問活動と念願であったフラメンコ発表会の開催につながった。

課題

- 打合せや作業が就業後となり、作業進捗が遅いことがあった。
- 実行者が実質２人だけであったため、情報の拡散にも限界があった。
- 当初は、施設側との調整不足からプロジェクトの公開が延びる恐れが出るなど、企画・準備段階での確認不足などから業務が停滞することがあった。

成功のカギ

○少人数で小回りの利く意思決定体制

- 実行者２人と福祉医療機構職員の３人のLINEでの打合せが場所時間問わずおこなえたため、細かな進捗報告やアドバイスなど密にコミュニケーションが取れたことが行動にもつながった。

○ユニークなコンテンツで関係者の共感を得た

- フラメンコ教室を開催しているBBS会員が、そのネットワークを通じて多くのフラメンコ関係者へ情報を伝えることができた。
- 「フラメンコは子どもの育成にとって良いもの」というメッセージを載せたプロジェクトページのライティングがフラメンコ関係者の賛同を得ることに。プロジェクトを知った関係者は、高い確率で支援に結びついた。
- ランドセルなどの物資支援や活動参加など資金支援以外でも支援をしたいという声があるなど会員候補となる動きにもつながった。

“再出発をめざす彼女たちと、これからも指輪作りを続けたい。”

7．更生保護法人　紫翠苑

（更生保護施設／東京都／真田安浩 施設長）

概要

更生保護施設として、12年前から未成年だけでなく成人女性特有の立ち直りが難しいケースについても受入れを開始している。女性入所者の立ち直り支援の一環として東京藝術大学とともにシルバーリング作りをおこなっている。

非行から立ち直り、社会への再出発を応援している"支援者"たちと、女性入所者たちをつなぐシルバーリング作りを11年にわたっておこなってきたが、そのための助成金がなくなり、実施が難しくなってきたため、今後も続けていくためにクラウドファンディングに挑戦することとした。

クラウドファンディングの実施結果

●公開期間	2019年12月27日 ～2020年１月26日（31日間）
●目標金額	60,000円
●事業者	READYFOR
●方式	All or Nothing／寄付型

●達成金額	134,000円
●達成率	223%
●支援者	38人
●目標達成までの期間	５日目
●準備期間	約６か月

●支援金額メニューと特徴的なリターン

〔メニュー〕500円/1,000円/3,000円/5,000円/10,000円

500円：お礼のメール

1,000円：お礼のメール

10,000円：お礼のメール、アクリルたわし３個、紫翠苑だより（名前の掲載あり）、シルバーリング体験（２名限定）

達成までの道のり

- 施設にてクラウドファンディングについて施設長に説明。当初はクラウドファンディングについて理解が進んでいなかったこともあり、実施に消極的であったが、将来的には施設の建て替えを検討しており、資金調達のノウハウを手に入れたいとのことで挑戦に踏み切った。
- 複数回の打合せすべてが施設長のみの対応（保護観察所職員同席）であり、実行者のマンパワーが不足していた。法人の組織体制も脆弱であったこともあり、企画は固まっていたが、詳細についてはあまり進まずに数か月休止状態となった。
- その後保護観察所職員とも連携を取りながら、少しずつチラシやプロジェクトページの作成をおこなう。
- 公開直後は、事前広報をおこなっていた関係者や知り合いからの支援が集まったが、READYFORの「注目のプロジェクト」に掲載がされ、訪問者数が増加。金額が僅少であったこともあり、公開５日目にして目標達成。
- その後は知り合いではない人たちからの支援が多く入り、更生保護施設としての活動に共感をしたコメントが多く寄せられた。
- ネクストゴール12万円を宣言し、結果223％の達成率で終了。

課題

- 組織体制が脆弱であったことなどから、寄付金募集の許可申請手続きなどにも苦慮した。
- 実行者自ら積極的に企画をおこなっていくべきだったが、他の業務などもあり、当初は、当事者意識が必ずしも高くはなかった。

成功のカギ

○スタートダッシュで盛り上がるよう事前広報をおこなった

- 施設長自ら地域の更生保護関係者や知り合いを訪問し、チラシを配って支援を求めた。開始後すぐに入金してくれたためプロジェクトが盛り上がり、「注目のプロジェクト」に掲載されて一般の人への周知が図られた。

○施設長自ら考えたチラシや文章が施設の特色を出すことができた

- 支援者の半数以上は施設と今まで関わりがなかった人たちであった。クラウドファンディングの文章や、活動報告の内容、チラシも施設長が考案。手作り感のある文章や、温かみのあるコメントへの返信が「また支援したい」と思わせる仕組みになっていた。
- 頻度高く活動報告を発信していたことも支援者の満足度を引き上げた。今後施設のファンとして継続的に支援をしてくれる可能性がある。

“非行少年の立ち直りを支え続けたい！
～大学生の私たちができること～”

8．八王子BBS会

（BBS会／東京都／松井優佳 会長）

概要

BBS会として、保護観察中の少年と更生保護関係者が一緒に料理を作る「ファーム＆キッチン」や、市内の小学生を集め、親御さんと一緒に凧づくりができる一般向けイベント「親子ふれあい工作教室」の２つの主催事業を中心に、幅広い活動をおこなっている。

八王子BBS会は、非行少年から地域の子供たちまで幅広く安全な社会づくりのために活動をおこなってきたが、活動資金が年々減ってきていることが課題。最近では来年度予算を立てる際の繰越金も少なく、将来的には事業継続の危機もあるため、支援者確保に向けたクラウドファンディングに挑戦することとした。

クラウドファンディングの実施結果

●公開期間	2020年１月14日 ～2020年２月15日（33日間）
●目標金額	80,000円
●事業者	GoodMorning
●方式	All In／購入型

●達成金額	231,500円
●達成率	289%
●支援者	30人
●目標達成までの期間	５日目
●準備期間	約２か月

●支援金額メニューと特徴的なリターン

〔メニュー〕3,000円/5,000円/10,000円/30,000円/50,000円

30,000円：お礼のメール、活動報告書PDF「八Ｂタイムズ」、八王子BBS主催イベント「親子ふれあい工作教室～凧づくり・凧あげ～」にご招待

50,000円：【企業様向け】お礼のメール、活動報告書PDF「八Ｂタイムズ」、活動報告書に支援者名を記載します！

達成までの道のり

- 11月にクラウドファンディングの説明を受け、時間的余裕がない中で参加を決断。
- 会長である大学４年生の学生が実行者となり、他のメンバーと協力して作業を実施。実質はほとんどの業務を会長１人で抱える状態となった。
- プロジェクト公開直後から関係者からの支援が入り、わずか５日で目標額を達成したが、この入金はおおよそ想定がされていたものであり、その支援を呼び水とした広がりは中盤においてもみられなかった。
- 中盤はテスト期間とも重なり、チラシの配布などができなかったこともあり、支援は滞る。
- 京都コングレスの関係行事に参加した際の内容がオンラインニュースにあげられたことから、プロジェクトページへの訪問者が一時的に増えたが、支援金額の急増には至らなかった。
- しかし、支援者リストで記載をしていた人に改めてお願いに伺うことで、支援金額を着実に増やし、289%の達成率で終了。

課題

- 大学生が多い団体であるため、本来の学業活動との兼ね合いが難しく、また、会長がほとんどの対応をする中で関与しない学生も一部いた。
- 学生のネットワークだけでは支援者となりうる人が少なかった。
- 企画をしっかりと詰める時間が取れなかったことから、内容の打ち出し方が弱く、地域住民の共感を得るには若干アピール不足のプロジェクトとなった。
- 学生の会員が大多数を占める団体であるため、中心メンバーとなる会員が流動的になりやすい性質がある。今回、クラウドファンディングの中心を担ったのは４年生の会員であったことからも、クラウドファンディングのノウハウなどをしっかりと残す仕組みが今後必要となる。

成功のカギ

○実行者の当事者意識

- 時間がタイトな中で、会長がなんとか時間をやりくりして作業にあたった。また、中盤以降は会長以外の中心メンバーも介入するように工夫をしながら当事者意識のある会員を増やした。
- チラシなどの制作物の完成を待たずして、普段から関わりのある団体や個人へ積極的に訪問していた。プロジェクト公開前から声をかけていたおかげで、開始前から支援金を預かったり、開始早々に支援が入ったりと、良いスタートダッシュがきれた。

○現実的な目標設定

- 目標金額を設定するうえでは、他団体との関わりからどのくらい集まりそうかを現実的に考えて設定したため、５日目にして達成することができた。

プロジェクトを振り返ってみて

今回、クラウドファンディングサイトにプロジェクトを掲載できた８団体は、そのすべてが目標金額を達成し、さらにネクストゴールの達成もできたところもありました。

一方で、残念ながらクラウドファンディングに興味を持って企画に取り組んだものの、クラウドファンディングサイトへのプロジェクトの掲載に至らなかった団体もあります。

また、目標金額を達成することはできたけれど、蓋を開けてみるとそのほとんどが身内であり、なかなか一般への周知ができなかったケースや、クラウドファンディングのお金以外の効果を期待していたがあまり大きな成果は得られなかったプロジェクトなど、課題も多く残りました。

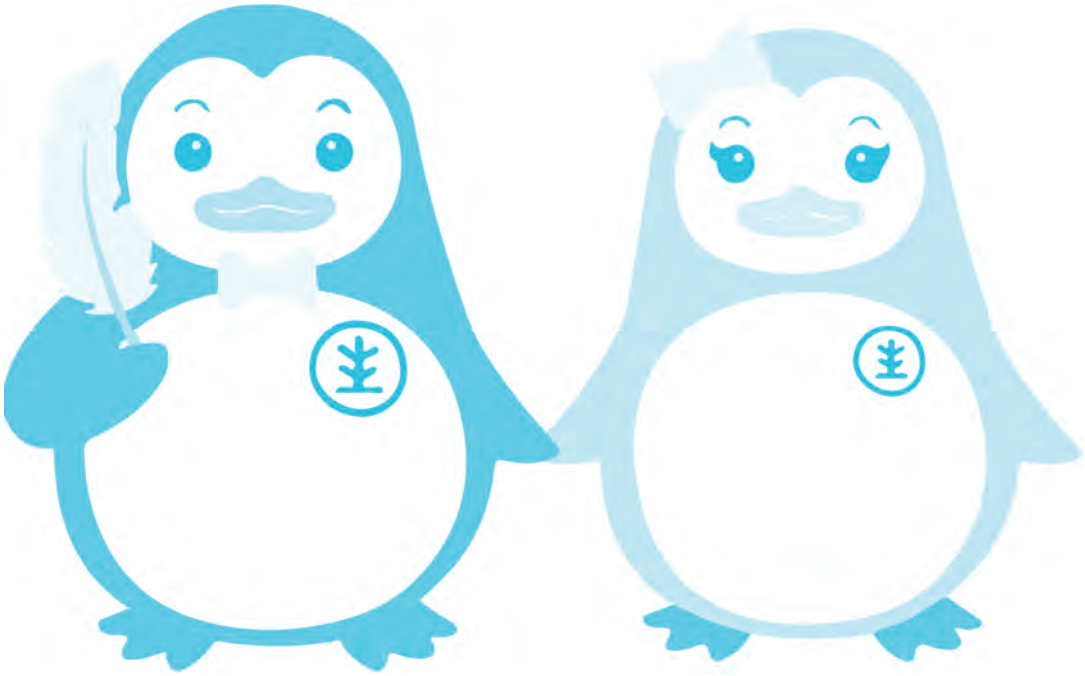
それらも含めて、今回の各団体の事例から、成功と失敗の要因について列挙してみましたので参考にしてみてください。

――【成功の要因】――

- ✓ 実行者の責任感や当事者意識が強く、自発的、積極的だった。
- ✓ １人ではなく、周りを巻き込みながら活動した
- ✓ 怖気づいたり、面倒くさがったりして後回しにせずにすぐに行動に移した
- ✓ メールで済ませようとせずに直接訪問したり電話をしたりしてお願いをした
- ✓ 広い人脈を持つ仲間を見つけ、積極的に活用した
- ✓ 少人数ではなく多くのメンバーで実施をした
- ✓ 積極的に新聞などのメディアに売り込んだ
- ✓ プロジェクトの内容に強く共感する層がいた
- ✓ サイト以外での支援方法の質問など実行者に連絡を取りやすい仕組みがあった
- ✓ スタートダッシュ時の支援を獲得できた

――【失敗の要因】――

- ✓ 実行者に責任感や当事者意識、危機感がなく、やらされ感が強かった
- ✓ インターネットができるメンバーがまったくいなかった
- ✓ 行動や意志決定が遅く、後回しにすることが多かった
- ✓ プロジェクトチームが一丸となっていなかった
- ✓ 企画やリターンなどに世間の感覚との乖離があった
- ✓ 企画や作業の時間がとれなかった
- ✓ 他団体や地域の人の協力が得られなかった



コラム

「支援は人につく。その人の“これまで”が表れるのがクラウドファンディング」

法務省松山保護観察所統括保護観察官　役重由紀

当庁管内の更生保護施設愛媛県更生保護会が実施した取組を，保護観察所職員という立場から振り返ってみたいと思います。

○愛媛県更生保護会のプロジェクトを振り返って　―成功の立役者は施設長―

愛媛県更生保護会が挑戦した今回のプロジェクトは，更生保護の普及啓発や地域の高齢者の居場所づくりといった，とても意義のある活動であったため，その事業内容にスポットライトが当たっていましたが，実はその成功の裏には施設長の存在が大きかったのではないかと感じています。

愛媛県更生保護会の松田施設長を言葉で表すと，「熱い」，「何にでも意欲的でどんどん発想が膨らむ」方です。
その姿勢は日々の入寮者へ向き合う姿勢にも表れており，たとえ処遇が困難と思われる人だったとしても，その人から更生意欲を感じられれば引き受けて全力で指導したり，時には入寮者の立場に立って親身に考えるあまり保護観察所と長時間協議したりと，とにかく熱い想いを持って活動をされています。

そんな施設長のいる愛媛県更生保護会がクラウドファンディングを実施したのですから，その行動力，発信力は私たちの想像を上回るものでした。
特に，施設長は活動にさまざまな人を巻き込むのがうまく，理事会や職員の協力を得ながらも保護司会や更生保護女性会，更には農協や地元の各団体を企画段階から巻き込み，当事者意識を持って協力してくれる人をどんどん増やしていったことも印象に残っています。特に更生保護女性会の皆様には資金面のみならず農園作業や食堂の切り盛りまで沢山の御協力を頂きました。
当庁とも随時情報共有を行い，史上初となる更生保護法人によるクラウドファンディング実施に向けて寄附金募集許可申請を乗り越えたり，当庁関係機関の行事を捉えてクラウドファンディングの広報を行う等されていました。お陰で愛媛県知事や松山市長などからも応援メッセージを頂きました。

その結果が，目標額の３倍を上回るご支援が集まった状態での終了！
また，「ホゴちゃん・サラちゃん食堂」の開催当日は，テレビや新聞社のカメラがところ狭しと高齢者や子どもたちの笑顔を撮って回っていました。

○クラウドファンディングの実施者に求められるもの

クラウドファンディングを実施する“人”に着目すると，今回のプロジェクトを近くでずっと見させていただいた中で感じたことが２つあります。

１つめは，その人にプロジェクトに対する“責任感”があるかどうかです。これは“当事者意識”，あるいは“本気度”，“覚悟”などと言っても良いかもしれません。
今回は，福祉医療機構の担当者が伴走支援という形で愛媛県更生保護会のクラウドファンディングのサポートをして下さっていましたが，今後クラウドファンディングに取り組む団体は基本的には全て自分たちで進めていかなければなりません。おそらく指示待ちで達成できるようなものではないでしょう。
いかに自分の事として自主的・自発的に動けるかがプロジェクトの成功には重要ではないかと感じました。

２つめは，その方の人柄にあると思います。
仮にどんなに意義のある活動をしていたとしても，その実行者がどんな人なのかが見えてこなければ，お金を入れる，活動を知り合いに紹介する，といった具体的な行動にまで結び付くことは難しいでしょう。
例えば今回の事例でいえば，施設長は御自身の性格を「愚直」と評されていましたが，施設長の誠実な人柄があったからこそ，「あの人が言うなら」という状態を生み出していったのではないかと思います。
なお，言うまでもなく愛媛県更生保護会が創業以来行ってきた地域や社会への貢献，理事長を始めとする当施設役職員や関係者の皆様の地道な努力が根底にあると思います。

クラウドファンディングは一見，「インターネットに対する知識がないと難しい」，「人目を惹くような内容でなければいけない」，「単発で頑張るもの」といったイメージがありますが，実は，やると決めた人の覚悟やその人となり，その人や団体の普段の外部との関わり方や信頼関係が非常に大事なのではないかと思いました。